



タモギタケ

キノコはノコクズ栽培で

現在八百屋やスーパーマーケットに1年中顔を出しているキノコには、シイタケ・ナメコ・エノキタケ・ヒラタケ・タモギタケがあります。これらのキノコは死んだ木材に侵入してセルロースやリグニンを分解し、栄養分として利用する木材腐朽菌とよばれる生物です。したがってその人工栽培は原木栽培で始まったのですが、エノキタケがノコクズ栽培できることが発見されて以後、ヒラタケ・ナメコもノコクズ栽培されるようになり、現在では前述のキノコの中ではシイタケだけが原木栽培で生産され、ほかはすべてノコクズ栽培による生産に切り替わってしまいました。

ノコクズ栽培の利点

ノコクズ栽培は原木栽培に比べて栽培期間を大幅に短縮できること、空調を行うことによってその栽培を周年化できること、さらに計画出荷が容易なことなどから急速に栽培施設が増加しました。しかしその反面、建設に多額の資金を必要とするにもかかわらず、技術的な集積が不十分なまま建設ブームが生じたきらいをいなめず、良い成果を上げぬまま終わった例も見受けられます。

とはいうものの、現在ではかなり栽培法も研究されており、ノコクズ栽培は今後も発展してゆくことでしょう。さらに現在は原木でしか栽培されていないシイタケも、将来的にはノコクズ栽培に移ってゆく可能性が大きいと考えられます。



ナメコ



マイタケ

針葉樹のノコクズも使える

ところで昭和56年には2,500トンのキノコを生産するために約6万 m^3 のノコクズが使われました。これは全道の製材工場から1年間に産出されるノコクズの約4%に当たります。キノコ栽培に使われる樹種はそれぞれのキノコによって異なっています。以前は広葉樹のものだけしか使われなかったのですが、栽培施設の増加や家畜の敷わらとしてのノコクズ消費の増大などから広葉樹のノコクズを確保しにくくなったこと、さらに針葉樹のノコクズをキノコ栽培に利用する方法を当場が開発したことから、エノキタケ・ヒラタケ・タモギタケの栽培では、トドマツ・エゾマツ・カラマツのノコクズが広葉樹ノコクズに劣らぬ培地原料として用いられるようになってきました。さらにナメコピン栽培でもカラマツのノコクズを利用する方法が最近開発されました。



エノキタケ



ヒラタケ

ノコクズの供給は十分か

このためいづれのキノコでも樹種の制約が昔に比べると大幅に軽くなってはいるものの、施設が集中するところではノコクズの価格が割高になっています。現在道内のノコクズ価格は1 m^3 500~2,000円（工場渡し）の範囲にあり、高いと言ってもキノコの製品価格の1.5%程度です。しかし今後も栽培施設は増加するでしょうし、敷わらとしてのノコクズの消費も増大するでしょう。そうなれば価格の高騰や品不足は避けられぬものとなり、製材工場からの廃材として産出されるノコクズを待つのではなく、積極的にノコクズを作り出すことが必要となるかもしれません。その場合原木価格がノコクズのコストを左右することになります。現在開発されているノコクズ製造機は1 m^3 の原木から約2.5 m^3 のノコクズを製造しますので、例えば1 m^3 10,000円の原木を使えば原料代だけで4,000円のノコクズになってしまい、これに消却費・人件費・運転費などが加算されると現在よりかなり高価なノコクズになってしまいます。

ノコクズ用原木の育成も

このようなことを考えると、ノコクズ栽培を行う人達は、シイタケ栽培者達がミズナラ原木を育成することを求められているように、ノコクズ生産用の原木を育成することを将来的には求められるように思われます。

(林産試験場 瀧澤南海雄)